平成３０年１１月１２日

第２回八尾翠翔高等学校　学校運営協議会（報告）

協議委員（４名）の参加をいただき、本校教職員（４名）が同席し協議を行った。主な質疑等については、以下の通りである。

①　第１回授業アンケートの結果より

７月に実施した第１回授業アンケートの結果について教頭より説明した。

一昨年、昨年に比べ、生徒の授業満足度は右肩上がりに向上している。ただ、「予習・復習ができているか。」や「生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に活かしているか。」の質問は、他の項目に比べて数値がやや低く、昨年度に引き続き、課題と考える。

【意見・提言】

・授業改善に関して、主体的、対話的な深い学びをめざしたグループ学習やペア学習については、十分な準備を重ねた上で実施しないと、グループの中の中心人物のみが発言を独占し、深い学びになっていないことも多い。

・ＩＣＴ機器を使い、視覚に訴える有効な授業を見学したことがある。その学校では予習に力を入れており、前日に次の授業に向けての授業内容をホームページにアップし、それを見て生徒たちが翌日の授業に臨むというものである。実際には、予習した生徒が中心となって授業を進めていくことで、生徒たちの主体的な学びが保障されていた。ぜひ参考にされたい。

・大学では、ゼミなど昔から主体的な学びやアクティブな学びの機会があった。しかしこれも基礎が必要で、これがないと主体的な学びに結びつかない。例えば、英会話でも文法をしっかり理解していないと伸びないし、基礎的な知識や勉強の仕方を身に付けることの方が大事だ。

・「何で学ぶか、何を学ぶか」といった本質的なことをもっと生徒に伝えていくべきと考える。やみくもに生徒に迎合するのではなく、学習内容の必要性を生徒に伝えていくことがとても重要だ。

②　高大連携について

今年度から大阪教育大学との高大連携事業を実施している。「国際交流イベント」や「放課後等の学習支援」「部活動や英語検定支援」など教育大学の教員・院生・学生の協力の下、多角的な取組みを行っている旨首席より報告した。

【意見・提言】

・アジアでは英語が国際共通語になりつつある。実際にアジアの留学生と交流することは、高校生にとって良い経験となる。

・放課後の学習支援や英語検定での協力は、教育大学の学生たちにとっても有効だ。小学校教員をめざす学生も、これからは五教科を中心にした教科教育力が求められてくる。

教わる側の高校生も同じで、翠翔のようにセンター試験受験を勧めている進路指導は、五教科の力を伸ばす意味でとても良い。

③ その他（コース制の見直し、地域連携、広報）

専門コース制を導入して３年が経過しようとしている中、本校ではスポーツリーダー専門コースについて見直しを含めた検討に入っている。また、地元小学校との小高連携や本校生徒を出身中学校に訪問させ、本校の良さをアピールするといった取組みなどについて学校側から報告した。

【意見・提言】

・高校生が出身中学校に出向いてアピールすることは、とてもよい経験の場を与えることだと思う。学校教育と並行して社会教育の場で生徒を育てることは、昔からよく行われてきた。プレゼン能力の育成にもつながるし、地域とのつながり、地域自身の活性化にもつながる。学校での勉強だけでなく、多角的に頭を使い学ぼうとする姿勢が、人間形成に直結する。